

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第三中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 206-0812
稲城市矢野口3043

E-mail : inagi3j@educet.plala.or.jp

Website : <http://academic1.plala.or.jp/ine3j/>

児童生徒数：男子 231名 女子 209名 合計 440名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 プロジェクトの実施方法

本校は平成25年9月30日にユネスコ・スクールとして承認された。本校の本年度のESDの取り組みは以下のとおりである。

(1) 取り組みの目的・育みたい力

- ・地域社会に目を向けさせ、環境学習、職場体験、ボランティア活動、地域行事への参加等を通して持続可能な社会づくりに向けての課題を見出し解決していこうとする態度を育成する。
- ・日本の美しい風土によってはぐくまれ伝えられてきた日本の情操や伝統・文化について、それらに対する理解を深め、大切にすることを育み、広く発信する態度の醸成を通して、世界に羽ばたく日本人となるための基盤を育む。

(2) 具体的な取り組み

- ・野沢宿泊体験学習（1年）、職場体験（2年）、東京フィールド・ワーク（2年）など、稲城や東京、野沢など、それぞれの地域に根ざした教育活動を進め、持続可能な社会づくりのための課題を見出し解決する学習を行う
- ・「日本の伝統・文化」に重点をおき、各教科等で横断的に学習する。
- ・その他、人権、環境・エネルギー、防災等について、各教科等で横断的に学習する。

3 本年度の重点的な取り組み

【重点取り組み1】 教職員のESDについての理解を深める。

稲城市では、市立小・中学校におけるESDの視点を生かした教育活動を推進するとして、市全体でESDの推進に取り組んでいる。

ESDは市立小中学校共通の課題であり、それにもなつて教職員のESDに関する理解や指導力を高めることが急務である。このことから、現段階で、ESDを推進する上で最も重要なことは、教職員のESDに対する研修であると考え以下のように研修会を実施した。

- ①目的 ユネスコスクールの役割について学ぶ
- ②日時 平成27年12月24日 午後2時
- ③講師 講師：NPO法人持続発展教育推進フォーラム事務局長 齊藤英行先生
- ④内容 「ユネスコスクールの実践的な取り組みについて」
- ⑤成果 研修会では教職員から質問や意見が多数あげられた。講師とのやり取りの中で、少しずつESDについてのイメージが構築され、各教科等において、具体的にどのようにESDを進めるのかについて考えることができた。

【重点取り組み2】 日本の伝統・文化を学ぶ

日本の伝統・文化を学ぶことは持続可能な社会づくりのために欠かせないことである。例えば、日本の伝統・文化には、日本の四季や自然を題材にしたものが多くみられ「環境」と深いかかわりがある。さらに、地域に根ざした衣食住に関わる伝統・文化については「文化」や「経済」とのかかわり、また、日本の伝統・文化を他国の伝統・文化と比較することで「国際理解」ともかかわりがある。

一方、伝統・文化は、長い間に多くの人たちによって形作られ、それぞれの時代によって変化してきたものである。そして、現在の私たちの住む社会の発展とともに伝統・文化も変化していくことが予想される。日本の素晴らしい伝統・文化を引き継ぎながら、より一層豊かな社会や文化を創造していくことはESDに他ならない。

以上のことから、本校では、日本の伝統・文化についての学習に重点をおいて取り組んでいる。

①具体的な取り組み

各教科等において、日本の伝統・文化に関わる内容を整理し、系統的に学習するようにした。例えば、国語科では、日本の四季と文学、音楽科では箏などの伝統楽器、美術科では和菓子作り、家庭科では日本の伝統的な衣食住などについて学習を進め、学んだことをもとに英語科で、「日本の伝統・文化」や「地域紹介」など題材として発信するようにした。特に各教科等の学習内容を生徒や教員が俯瞰できるように本校独自のESDテキストを作成した。

【重点取り組み3】 地域に根ざした課題解決学習

職場体験・保育体験（稲城市）、東京フィールドワーク（東京都）、宿泊体験学習（野沢温泉村）など、地域に根ざした課題解決学習を行った。

職場体験・保育体験は、稲城市内の事業所（幼稚園・保育所）で3日間の職業体験を行う取り組みである。約300名の生徒が一斉に体験するため、教員が体験先を確保することが難しい。そのため、稲城市の学校支援コンシェルジュ（学校支援コーディネーター）が体験先をすべて確保している。職場体験・保育体験では、個々の生徒が、地域に根ざした課題をもって体験を行いその結果を新聞の形にまとめている。

また、1年生では、稲城市と友好都市関係にある長野県野沢温泉村での宿泊体験学習を行っている。1月に野沢温泉村を訪れ学級毎男女別に民宿に分宿し宿の方との交流を深める。特に、野沢温泉村では、伝統的な食文化である「野沢菜」や雪国での住まい、伝統行事である「道祖神祭り」、歴史的な風呂「外湯」などに触れることができる。課題をもって現地に行き、宿の方との交流や実際の観察、現地の方へのインタビューを通して課題解決に取り組んでいる。

2年生では、東京フィールドワークを実施している。主として上野や浅草など、東京都の文化・伝統及び先進的な技術などについて、事前に課題を設定し、フィールドワークを通して解決を図る学習をしている。その結果についても班ごとに模造紙にまとめている。東京フィールドワークはオリンピック・パラリンピック教育の一環としてもとらえており、来年度以降、東京の魅力を他の国の人たちに発信する取り組みへと発展させたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）